

analog

2010
SPRING
vol.27

オールカラーでさらに充実!

特集

リーズナブル アナログプレーヤーを 集中検証



アナログ関連
豪華モニター大募集

アナログ盤を
楽しむための
魅惑の同軸スピーカー

特別インタビュー

ピーター・バラカンさんが
アナログレコードと音楽への
想いを語る

好評連載

いまこそクラシックカメラを楽しもう
第23回「イギリス編 ③」
コンパス登場!

- 音の五つ星物語「話題のカートリッジ/スピーカー」
- 新世代管球アンプ4モデル試聴
- ビットインインタビュー「森山威男さん<前編>」
- モルトウイスキーの蒸留所を訪ねる
- 石井聖子さんがサントリー白州蒸溜所を体験
- 20世紀ラヂオ
- 最新レコード全28タイトルレビュー

■EAT 上位モデルをひとまわり小さくした 妹分のアナログプレーヤーが登場

チェコ共和国を中心に、オーストリア、ドイツ、スイス、英国などヨーロッパ諸国を拠点とするEAT（ユーロ・オーディオ・チーム）のCEOである、ジョセフィーナ・クラウルコワ氏が来日した。

同社は信頼性の高い真空管を手掛けるブランドとして、各国から高い評価を得ているが、最近では超下級のアナログプレーヤー「Forte」を発売。

同モデルは上質な素材を惜しみなく投入し、大径の2重ターンテーブルをネオジウム磁石によりフローティングさせ、精巧なモーターで駆動する仕組みなど、先進の技術を装備した現代最大級のレコードマシーンとして高い評価を獲得し、本誌が主催する「アナロググランプリ」も見事に受賞を果たしている。

さて、今回同氏が来日した目的は、新製品のアナログプレーヤー「Forte S」



本誌が主催する「アナロググランプリ2010」にて「Forte」が見事受賞を果たした。その賞状を手にする、EAT社のCEO、ジョセフィーナ・クラウルコワ氏



EATの最高峰アナログプレーヤー「Forte」(¥1,354,500)。同モデルをひと回り小さくした1シャーシ構造の「ForteS(シスター)」がいよいよ3月末より登場する

の発売を伝えるためのもの。Sはシスターのことであり、「Forte」の妹分にあたる製品。サイズをひと回り小さくした1シャーシ構造が大きな特徴で、上位機と同様にIKEDAのロングゲームが搭載される。この3月末には日本に製品が到着することだが、誌面で外観を見ていただけないのが残念なところ。

幼少の頃からアナログレコードが奏でる音楽のある環境に育った、という同氏が世界中のレコードプレーヤーを見聞し、自らの構想を実現した「Forte」。本機をさらに使いやすく、価格的にも求めやすくした「シスター」の登場が待ち遠しい。

■DEVIALET 美しすぎる新世代アンプ。パリより上陸 デジタルとアナログの良さをいこころ取り

ドゥビアレ(DEVIALET)はフランス、パリに拠点を置く、全く新しいオーディオブランドである。同社のチェアマンであるピエール・エマニエル・カルメル氏と、セールスを担当するマニエル・デ・ラ・フェンテ氏がデビュー作であるプリメインアンプ「D・Premier」を携えて来日した。デビュー作といっても本作の完成度はこの上ないものとなっている。

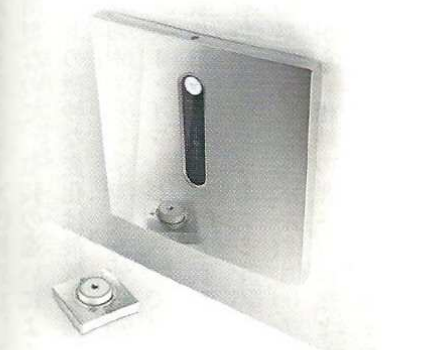
超薄型、鏡面仕上げのボディは壁掛けも想定したもので、WiFi伝送による別筐体のボリュウムも美しいデザインである。

さて、本機の開発にあたる、大きなテーマは「アナログアンプとデジタルアンプのいいところ取り」。ADHテクノロジーという同社のパテント技術が採用され、8台搭載されているデジタルアンプ部は信号をコントロールするだけ。最終的に純A級240Wでの出力を実現するという仕組みである。

機能としてはアナログ、デジタル系の入出力端子のほか、サブウーファー駆動用の出力端子や本機2台でのブリッジ接続ができる端子などが豊富に装備されている。入力系はさまざまな仕様への書き換えも可能である。またSDカードスロットも装備され、さまざまな機能のアップデートにも対応している。

さらに本機にはMMとMC対応のフォノイコライザーも搭載され、ゲイン等の精密な設定がSDカードを介してPC上で行える。

価格は150万円を予定。日本での流通体制が整い次第の販売となる。すでに弊社試聴室でもデモを行い、評論家陣も「このクラスのデジタル方式を採用したアンプとしては、ほかにかなう製品はない」と、その高いレベルの音質を確認することができた。詳細に関しては、追って本誌や姉妹誌の『季刊・オーディオアクセサリ』にて紹介していくことにしよう。



新ブランド、DEVIALET(ドゥビアレ)社のプリメインアンプ「D-Premier」。美しいリモコンが別筐体となっている



DEVIALET(ドゥビアレ)社のチェアマンであるピエール・エマニエル・カルメル氏(写真右)とセールスを担当するマニエル・デ・ラ・フェンテ氏(写真左)